

輸入食品由来の放射性物質の摂取量評価

寺田 宙

食の安心・安全を確保するとともに、核関連施設事故や核テロ等、有事に備えた基礎資料とすることを目的に、輸入食品中の種々の放射性物質の濃度実態を調査しています。

研究の背景

- ・これまでは、チェルノブイリ原発事故や北朝鮮の核実験等に起因する放射能の影響が我が国に及ぼす場合に備え、輸入食品中の放射性核種に関する調査研究を実施
- ・平成28年度からは、ISISの台頭等による核テロ、放射線事故への懸念の高まりを踏まえ、諸外国産輸入食品中の平時における種々の放射性核種の実態調査を実施

1. 対象相手国

→ 輸入重量、届出実績に基づき選定：中国、米国等

2. 対象輸入食品

→ 輸入割合の多い食品：小麦等
放射性セシウム濃度の高い食品：キノコ類等
被ばくへの寄与が高い食品：貝類等

3. 対象放射性核種

→ 原子力発電所関連：放射性Cs、Sr-90、Pu、ウラン
天然核種：ポロニウム210、カリウム40